



令和2年3月 WEB版

発行：仙台市立学校事務研究会

杜の風 64号

編集：広報部



- ◆研究大会アルバム ◆仙台市独自採用10年目（インタビュー）
- ◆学校事務適正指導チーム 横田さん（インタビュー） ◆編集後記

令和元年度

第18回 仙台市立学校事務研究大会

R2.2.7(金) 仙台市民会館



講演
「学校における働き方改革と
事務職員の役割・期待」

講師
三菱UFJリサーチ＆
コンサルティング株式会社
政策研究事業本部
主席研究員 善積 康子 氏



「キーワード解説
2019」

人をつなぐ
未来へつなぐ
笑顔かがやく
学校運営のために
調査研究部



「学校事務と情報発信」
～学校事務を効果的に機能させ、
組織の一員として学校経営に参画するために～
若宮地区事務研究会



採用から10年! ロングインタビュー



仙台市が学校事務職員の独自採用を開始して今年4月でちょうど10年。

平成22年4月採用の第一期採用者お二人に、10年を振り返ってみて初任当時の大変だったことや、これからのお仕事の将来のビジョン等について、いろいろお話を聞いてみました。

インタビュアーは同じく第一期採用者である広報部員 菊池夏樹さん(郡山中)です。

【インタビューのテーマ】

- ① 初任当時のこと
- ② 市教委事務局での業務経験について
- ③ 採用から10年経った今、学校事務の仕事について思うことなど



Interviewer

菊池夏樹さん

Interviewee NO.1 南中山中学校 對馬 翔太 さん

①初任当時のこと

Q1: 對馬さんは大学卒業後、社会人として最初の職業として学校事務を選択されましたが、職場としての学校の第一印象や、初任当時大変だったことを教えてください。

A1: 小学校の配属で、子ども達の元気な姿を見ながら仕事ができる環境にやりがいを感じました。

着任前から学校に事務職員が1人しかいないということは分かっていましたが、

実務を教えてくれる人がおらず、前任の方に電話で聞く毎日でした。

また、当時は仙台市学校事務職員独自採用開始初年度ということもあり、

学校事務職員の専門研修の制度が確立しておらず、市役所本庁の

新規採用職員と同じ内容、日程での初任研修で、日中は研修に参加して

夕方に学校に戻り年度初めの事務処理をするという毎日でした。

本庁の初任研修は4月の赴任日以降2週間程度、連日で日程が組まれており、

ほとんどが1日がかりの研修でした。研修内容も当然、学校事務職員向けでは無く本庁職員を対象とした

研修がほとんどでした。今は、初任層の学校事務職員を対象とした指導体制や研修制度が充実していく素晴らしいと思います。



Q2:初任一年目の時に発生した東日本大震災時は学校でどのように過ごしていましたか？

A2:地震発生時は職員室に一人でいました。停電するだろうと思い、拡声器を外に出て管理職が職員室に戻るのを待っていました。ちょうど巡回郵便の方が来る時間で、揺れがおさまった後にメールバッグを交換し、配達員の方と2人で呆然としていた記憶があります。今でもその時の配達員の方とお会いした時に当時の話をすることがあります。

地震発生当日は、避難所の準備や運営に追われ、寒い体育館で一晩を過ごしたことは忘れられません。当時在職の皆さんと同じだと思います。現在の避難所運営体制、学校の施設管理者としての役割など、まだまだ課題はあるなと感じています。

② 市教委事務局での業務経験について

Q3:対馬さんは学事課で3年間、総務課では2年間の合計5年間、学校現場を離れ市教委事務局でご経験を積まれましたが、印象に残った市教委の業務等について教えてください。

A3:学事課では災害復旧に伴う学校の増改築の対応や閉校の対応、また新設学校の開設準備などが印象に残っています。錦ヶ丘小学校の新設の際は、他の課と連絡調整しながら大量の物品を整備するなど、なかなか経験できない業務に携わりました。

あと、なんといっても市内学校の取りまとめや大量の物購処理など、業務の量的な部分は外せないですね(笑)次に配属された総務課では、教育委員会の取りまとめ的な部署になるため、これまでとは全く異なる新しい仕事に携わることができたのは良い経験でした。

Q4:市教委での仕事を経て学校へ戻り、学校事務職員として仕事への臨み方や仕事観に変化はありましたか？

A4:特に、総務課で過ごした2年間は貴重だったと思います。他の課や他局でどの様な仕事をしているのか見ることができるのが総務課という部署でした。様々な文書や照会を処理していると、真に必要な業務は何か、この業務は何か縮小できないか、というような目線で仕事をするようになりました。

Q5:市教委の同僚の中には、市の一般行政職の方も多いと思いますが、そういった方達の仕事の進め方を見て、インスピライアされたこと等はありますか？

A5:学校事務職員とは異なり、市の一般行政職員の場合、主事や主任等の職名・職階を問わず、実に広く様々な視野をもって仕事に臨んでいると思いました。普通なら気付かない、見過ごしてしまうようなところに気付いたり、係長級以上になるとリスク管理等の面でさらにひとつ高い次元で総合的な視野で仕事を進めていたりします。また、規則や条例を作っている側であるため、文言の一つひとつの統一性などのチェック機能のレベルが非常に高く、仕事の正確性・精密性という面で学ぶべきところが多くありました。

③採用から10年経った今、学校事務の仕事について思うことなど

Q6:これまで学校事務の仕事をしていて忘れられない出来事、忘れられない失敗等がありましたら教えてください。

A6:忘れないことは、保護者の方からお叱りを受けたことです。震災の後の採用2年目の頃、被災された転入生の方への対応で、十分な説明や丁寧な対応ができず、「勉強しろ！」と言われました。その言葉を励みに頑張っています。

Q7:学校事務の仕事について将来考えていることや、これからやってみたい仕事等ありましたら教えてください。

A7:学校事務の将来について考えていることとして、市教委にどんどん学校事務職員が入り、学校事務の立場から教員の働き方改革をすべきだと思います。学校事務連携も、トップダウンで始まったのはいいのですが、ベースとなるものが少なく、とまどってしまうグループがあるのではないかと思っています。反対に本庁職員が学校事務に入ることもあって良いと思っています（難しいのかなと思いますが）。

将来的には先生方が担当している各種会計を学校事務が引き受けることができるようになればと思っています。ただし、他校との業務量の不均衡や先生方が会計業務を知らないまま管理職になり得る状況を生んでしまう等、様々な課題があるなと思っています。

（あと、今、やりたい仕事は学校の草刈りです（笑）。全く余裕がないのでできていませんが、敷地内で気になる場所がたくさんあり、悶々としています。）

対馬さん、ありがとうございました！

（次ページに続きます）



Interviewee NO.1 七北田中学校 千田 浩次 さん

①初任当時のこと

Q1:民間企業からご転職を経て学校事務職員になられた千田さんですが、職場としての学校の第一印象や、初任当時大変だったことを教えてください。

A1:転職して学校職場そのものに対するカルチャーショックのようなものはそれほど有りませんでしたが、初任校が秋保小学校で、当時は泉区の実家から片道 25km の行程を通っていました。配属先が決まる前に、地図を見ながら「初任地が秋保だったら笑うな」と思っていたら、本当に秋保小学校になってしまった(笑)。思い返すと、初任地を決める面接時に聞かれたのが「車は持っていますか?」だったので、遠いんだろうなとは思っていましたが…。着任前に秋保小学校の下見に行った時、そのまま気付かずに通り過ぎましたからね(笑)。学校の規模としてはそのぐらいコンパクトでしたが、初任校としては丁度よい学校で、給食も教室ではなく児童と職員がランチルームに集まって食べたり独自の文化がありました。事務複数配置の学校で仕事を教えてもらひながら覚えるのも良いですが、初任の頃から単数配置の学校で、一年間の業務の流れを 1 人で一通りこなしてみるという経験は大変でしたが非常に意義のあるものでした。

Q2:近年は非常に充実している学校事務初任層の研修・フォローアップ体制ですが、10 年前はほぼ実務研修なし&体系化されたバックアップ体制なしの状態で学校現場デビューをせざるを得ない状況でした。その時の苦労話などがあれば教えてください。

A2:10 年前の初任時、着任後間もない 4 月初旬の一番忙しい時期に、市役所本庁の一般行政職向けの新人研修で 2 週間拘束されたのを覚えております。たしか泉区の職員研修所で朝から晩まで新社会人向けのマナー講習的なものやゴミ処理場とか市営施設の見学が多かったですよね。全く社会人経験が無い採用者向けにやる分には悪くないとは思いますが、学校事務のように 4 月に職場を空けても代わりに業務をやってくれる人が居るわけでも無く、すぐに実務的な業務をやらなければいけないという状況下で、ゴミ工場とか肥料「杜のめぐみ」が出来るまでの工程とかを見学しても…(笑)。市政の構造の一環を知るという意味では意義があるのは理解できますが、「今やることか」という感はありました。

実際に研修から学校へ戻った後も、実務で分からぬ部分は文書や法令を確認しつつ、直接、教育委員会等へ電話で確認をしながら仕事を進めるしかありませんでした。そんな時に大きな助けとなったのは、当時、試験運用段階だった「学校間事務連携」の拠点校の先輩事務職員の先生でした。

仕事について電話で相談にのっていただき、

「旅費ツール」のセッティングや使い方についても

レクチャーしていただき、本当にお世話をになりました。



②市教委事務局での業務経験について

Q3:千田さんは平成 26 年 10 月に当時の市教委の新設部署である「政令市権限移譲準備室」に配属となりご経験を積まれましたが、当時のことについて教えてください。

A3:平成 26 年 10 月という年度途中での発令で移譲準備室へ行くことになりました。当時の勤務先の北仙台中で 9 月の段階で校長室に呼ばれて「来月から教育委員会です！」って言われて「断れないんですか？」って話した記憶が…(笑)。9 月に言われて 10 月に異動なので、後任者への引継ぎの準備が非常に大変でした。異動先も新設の部署だったため、これまでの仕事の前例の蓄積や記録資料が無い中での、全くのゼロからの立ち上げでした。業務量として多かったところとしては、市立学校の全職員 5000 人近くのデータ資料を県から取り寄せ、一人ひとりの通勤や住居等の各種手当のデータを、準備室の主任以下の職員で全部確認して市の給与システムへデータ入力をする業務などがありました。一番大変だったのが、学校事務職員と栄養士の全員 200 人超の人事記録を確認しながら一人ひとり採用時から仙台市任用までの給与号俸の再計算や格付けを行う業務でした。本庁の総務局人事課や労務課等の他部署と協議調整を進めながら、昭和の頃の採用時の記録まで遡って、昇給や特別昇給の記録まで把握した上での再計算を要するという、緻密かつ膨大な作業でした。

Q4:市教委での仕事を経て学校へ戻り、学校事務職員として仕事への臨み方や仕事観に変化はありましたか？

A4:教育委員会での経験を経て、条例や規則に関してはかなり強くなったと思います。仕事においてリスクマネジメントを適切に行い、トラブル等を未然に防ぐためには、原理原則を熟知することが非常に大事であると考えております。市教委で身につけた法規の知識は、学校事務として学校に戻った後も、教頭先生や校長先生などの管理職と話をする際には役に立つ局面が多々あると感じています。

Q5:千田さんが市教委から戻られて最初の配属校が現在の七北田中学校ということで、中規模よりは少々大きめの単数配置校でしたが、率直に学校と市教委の仕事はどちらが大変と感じますか。

A5:権限委譲準備室という部署の業務の特殊性もあって、やはり市教委での仕事が大変でした。

他部署との連絡調整業務が多く、本庁の総務局人事課や労務課、果ては会計室にまで、移譲準備室の事業についての説明に赴き、理解と協力を引き出す必要があり、それぞれの部署の立場があり譲れるところと譲れないところというのがある訳で、対人的な部分の業務が非常に難しいものがありました。学校は仕事の要領を掴んでいればどんどん自己完結できるものが多く、やりやすさを感じます。もちろん、学校現場も色々で、大変なことはたくさん有りますが…。

あとは、うちの学校には事務室が無いので、事務室が有ればもっと集中して仕事が出来るのかなとは思いますけどね(笑)。

③採用から10年経った今、学校事務の仕事について思うことなど

Q6:これまで学校事務の仕事をしていて忘れられない出来事、忘れられない失敗等がありましたら教えてください。

A6:失敗談といえばすぐに思い出すのが、菊池さん(インタビュアー)も一緒にやらかすことになった初任校での「二重請求」問題(笑)。

年度末に図書関連物品を大量に発注していたときに、業者との意思疎通が上手くいかず、業者のミスもあって同じ物品を重複して物購処理してしまうという…。あの時は2人とも学事課から随分叱りを受け、多方面にご迷惑をお掛けしたものでしたよね。5W1H がきっちり時系列順に分かる顛末書を書くことにもなりました。これが一番大きな失敗でしょうか。

Q7:学校事務の仕事について将来考えていることや、これからやってみたい仕事等ありましたら教えてください。

A7:この先、学校事務の仕事がどのようにになって行くのかという点については気になります。市教委はどう考え、どう持って行きたいのかなという所も含めて。今年度の全事研に参加してきましたが、文科省が求める「チーム学校」の形と、市教委が進めようとしているものについて、どのような道筋で進んでいくのか、足並みが揃い方向性は同じなのか、学校事務職員の職域の在り方や、職務の専門性はどのように担保されるのか等々、動向を注視していかなければならないことが多々あると感じています。

千田さん、ありがとうございました！
(次ページに続きます)



最後に…

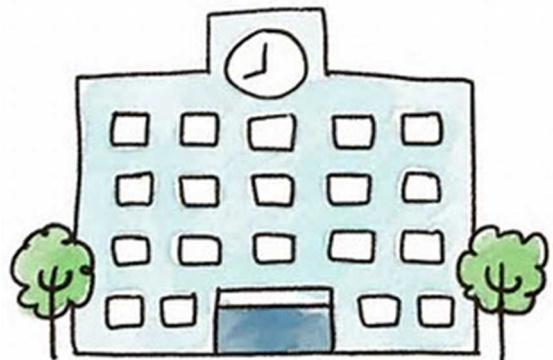
【インタビューを終えて】郡山中 菊池さん



同期職員の二人と10年前の話をしていると、私自身も十分な研修が無い中で、初任でいきなり本校と分校の兼務を命じられ、右も左も分からずに苦労していた日々のことを思い出しました。このような当時の厳しい状況の中でいつも手を差しのべてくださったのが先輩事務職員の皆様でした。多くの方々よりご指導をいただきながら、おかげさまで私たちは採用10年目を迎えることができました。

私は「10年たってもまだまだ勉強が足りないな」と現任校で思い知らされる局面が多く、時に思い悩むこともあります。今回のインタビュー企画を通じて同期の二人と10年間を振り返る機会を得て、仕事の知識を得ようと振り構わず必死だった10年前の自分の貪欲さや気概を改めて思い起こし、学校事務職員であり続ける限りはこれからも学び悩みながら、自分の仕事の質を高めるべく常にバージョンアップを志向し続けて行こうと、より前向きな気持ちを持つことができました。

対馬さん、千田さんともに市教委事務局でのご経験で学ばれたことを学校事務の仕事の中で存分に発揮され、学校事務職員としての将来のビジョンについて信念を持ってお話をされている様子がとても印象的でした。お忙しい中、インタビューを快くお引き受けいただいたお二方、本当にありがとうございました。



学校事務適正指導チーム

横田 彰夫 さん

インタビュー

昨年3月に退職された事務職員の先輩横田さんに、現在のお仕事の様子や後輩へのアドバイスをお伺いしました。

《 新しい生活について 》

① 「学校事務職員」→「適正指導チーム」生活の変化を教えてください。

毎日、スーツにネクタイになったことですかね。学校にいたときは年に2～3回しかネクタイを締めなかつたものですから。慣れればこれはこれで、如何にもサラリーマンって感じでいいものです。

それと、学校と違って行事が皆無なので、季節感のない日々を送っています。

他には、定時退庁ですね。チーム内の暗黙の了解みたいなものです。

② 適正指導チームにならなかつたら何をしていましたか？

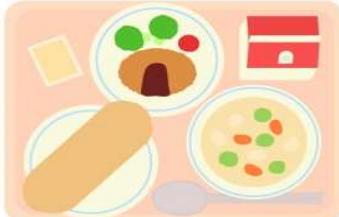
この4月からは、自宅で趣味の家事に専念しスローライフを送っていましたはずでした。

が、何故か教育センターに毎日通うことになったらしいです。

③ お昼ご飯はどうしているのですか？

内勤の日は毎回手弁当持参です。学校訪問日は外食のパターンで、訪問終了後のランチということもあり、いつも14時前後になります。調査点検に時間がかかり、昼食抜きの日もあります。不規則なので、結果体重が増加傾向です…。

給食が懐かしい今日この頃です。



《 適正指導チームについて 》



④ 適正指導訪問以外の日の業務を教えてください。

訪問時の報告書を作成しています。また、次の訪問校の傾向を掴むために、過去（主に前年度）の報告書をチェックするなど、受験生の過去問対策のようなこともあります。さらに、各チームの担当者ごとに打ち合わせを持ち、情報の共有や共通理解を図っています。

チーム内の先輩方は、センター内での研修会に講師で参加したりもしています。

⑤ 適正指導チームは総務課管轄と聞いていますが、総務課には定期的に行かれますか？

殆ど行くことはないです。連絡等はデスクネットの庁内メールを利用してます。ただ、チームには予算が全くないので、消耗品類が必要になったときは総務課に貰いに行くことになります。この半年では、一度だけ印刷用紙を取りに行きました。

《 後輩事務職員へ 》

⑥ 「学校事務職員」を離れて、あらためて「学校事務職員」の仕事について思うところを聞かせてください。

学校現場で唯一の行政職員として、また、財務を司る職員として、積極的な学校経営への参加をすべきだと考えます。自分の分掌事務ではないから関わらないという姿勢は避け、誰からも信頼されるような事務職員になつてもらいたいと思います。

⑦ フリーで何かお願いします！

毎日楽しく仕事ができるように、職場環境の改善や職員とのコミュニケーションを図りましょう。一人職なので自分のペースで仕事を進められる反面、自分だけで全て処理しなければならない場面もあります。そのためにも自分自身で態勢を整えていかなければなりませんよね。

チームの一員として学校を訪問しますが、気持ちは学校事務職員のままです。

訪問の際は是非気軽に声をかけてください。



編集後記

学生の時分から趣味で収集している物のひとつに、鉱物・動植物標本や考古学遺物のミニチュアレプリカなどがある。決して博物学的好奇心のような高尚な理由からでは無く、単に自然界の森羅万象を切り取った物を手元に置いて、飾って眺めるのが好きだけなのである。後からインテリア雑誌を読んで知ったのだが、世間では「理科室系インテリア」なるジャンルに分類されるらしい。新たにコレクションに加えるべく、先日、欧州を代表する色鮮やかな毒キノコである「ベニテングダケ実物大原色模型」をネット通販で購入したのだが、購入先が中国系企業だったためか、宅急便伝票の品名欄にはかなり怪しい日本語で「真実的リアル毒茸セレクション」と記載されていた。配達員の私に向けられた視線は社会から逸脱した人間を見るそれであったが、届いた品物は大満足のクオリティだったのであった。

マイスター工房

元号が変わって初めての年越しは、例年と違いエネルギーとお金の消費が多い年末年始でした。大晦日にお風呂の天井を拭こうと浴槽の縁を跨いだら案の定滑って冷水に落下したり、いつも自宅で迎える年越しを友人宅で過ごしたり（カウントダウンと一緒にしようと言って集まつたのに寝落ちして叶わず）、元旦は祖母と温泉、その後も年明け早々ディズニーに行ったりカフェでおしゃれなモーニングを食べたり…。体調も崩すことなく心もぽかぽかと暖か賑やかな日々でしたが、幸せな時間はあっという間に過ぎ、出迎えてくれたのはキンキンに冷えた通帳でした。スッと現実に引き戻され、今日も美味しく豆腐を食べます。

コウメ太夫好き

～編集後記を楽しみに杜の風をお読みくださる会員の皆さんへ～

“ホッと一息”についてもらえる紙面づくりの広報部ですが、広報部員もまた作成を“楽しみ”にしています。（広報部会も楽しみです☆）編集後記の「ネタ」も思いつくと嬉しくなります。（思いつかないときは・・・）唯一？匿名が許されるペンネームですが、部員内も【極秘情報】なのでまとめている方しか分かりません。「もっと詳しく聞きた～い」情報の時は→モヤモヤのままです（笑）

いつもマイブーム

引っ越しの際に不要品を処分したはずなのに、約2年で一室が物置化。見渡せば、愛用品の予備の予備等が部屋を占拠していた。これではいけないと断捨離を決意！・・・したが、なかなか進まず。私が眠っている間にこびとさんが断捨離してくれないかなぁと思う今日この頃である。

おちびちゃん

最近一番頭を悩ませているのが、3歳の娘のご飯を食べない問題。前まで食べていたものもあまり食べなくなり困っていましたが、食べ方や姿勢などいろいろと口出しされながら食べるご飯は嫌だよなあとも思うこの頃です。そういう私も幼い頃は牛乳とカレー（ほぼレトルト）で育ったようで…（汗）しつけや食育は難しいなあと思い知らされています。

だだっちゃん

以前、炊飯器での料理にはまったことがあります、今はレンジでチンするだけの料理にはまっています。ミートソースや肉団子、ひじきの煮物なんかもレンジでチン。簡単だし、鍋を使わないから洗い物も少ない。レンジ様、いつもありがとうございます。

泉ヶ岳